

# 校友会報

第 7 号

昭和 40 年 9 月 10 日

日本大学第二工学部校友会事務局

福島県郡山市田村町徳定

電話 郡山 ②1563番

発行人 小林秀一

編集人 近藤功

## 第二工学部の現状



昭和28年新制の第1回卒業生を世に送つてから、既に12年経つた今、郡山にある第二工学部は一つの転機にたつている。終戦直後の困難な時期を経て徐々にではあるが形の上の発展は卒業生諸君を驚かせることであろう。先生、職員、建物、実験室など随分変つている。今年卒業した人達も来年来れば更に変つた姿に驚くだろうと想像する。大講堂兼体育館、そして諸君が熱望していた図書館の工事が八月着工になつた。今年の四月からは3号館の教室が使われるようになり、講堂は36室となつて以前の木造は全々使つていない。

実験設備も毎年購入され、実験室が建てられ種々な機械、器具が整備されてきている。このような現状を見て諸君は羨ましいと思うに違いないし、或る卒業生はもう一度このような環境のなかで勉強してみたいと、しみじみと言つていた。

この外にも北心寮は俊英寮と変わり、ブロック造りの2階建で冬はスチーム暖房の設備があり、以前火鉢をかゝえて北風に悩んだことなど、いまの寮生には想像も出来ない程となつた。また磐梯山には第二工学部の「磐梯高原寮」が八月に出来上つて学生の余暇の活用に充分効果をあげるものと期待されている。学内だけでなく学外の施設も着々と整備され、学校としての形は完成されつつある。

凡てに不充分であつた嘗つての郡山で勉学された諸君から見れば、ここに学んでいる学生は幸福だと思うだろ

## 外木有光

う。然し以前諸君が学生時代に持つていた東京との比較、そしていつも疎外されているのではないかとの懸念、こうした気持は新しい環境の中でなお現在の学生にも残つて主流となつてゐる。一つには「第二工学部」という部名にもあることは郡山にいる人達全部が痛切に感じ、またこの名称の変更は久しく望んでいたところである。諸君は社会に出て苦しみながら「第二工学部」という部名をもつともつと輝かしい、誇りに満ちたものにするための努力を積み重ねた結果年ごとに認められるようになってきてはいるが、第二工学部へ入学しようとする高校卒業生、進学指導の先生達はまだ名称に負い目を感じているし、在学生もこの名称に不満をもつてゐる。勿論第二工学部が形だけなく内容も実力を充実して、立派な姿になれば一人一人が誇りを持ち胸を張つて、名称などを問題にしなくなるだろう。第二工学部の内容を立派なものにするには全員が前向きの姿勢で、研究に勉学に、そして全ての活動に積極的な努力を続けることであろうと思う。そのための一つの契機として学部名を「工学部」と変える努力をしてきた。幸い学校としてもそのような方針をとることになり、近くの文部省へ書類で申請することになる。

多分諸君の中には苦しんで育ててきた「第二工学部」という名称に深い愛着を持ち、誇りを持つてゐる人達が多いこと、思われる。同時に名称変更が何になるとお考えの方もいるかと思われる。確かにその通りであるが、郡山での十数年の現実は形質共にこの学部が立派なものになつてゆくためには、明らかに部名が一つの障害になつてゐるし、郡山における意欲的な内容充実の動きを与えるには是非必要な解決すべき一つの課題となつてゐる。

卒業生諸君には第二工学部が立派になり、すぐれた後輩が諸君の後に続いて、益々発展していくための一つの転機として、学部名変更の経緯を充分理解されるよう筆をとつたものである。

(筆者は第二工学部学生課長、機械工学科教授)

# 校友会のあり方



会長  
渡辺 幸夫

わが日本大学第二工学部の第1回卒業生が出たのは昭和28年の春で、未だ日も浅く、校友は現在約4000名程度である。

校友会活動をふりかえってみると、昭和30年に土木科校友会が始めて誕生し、これを母体として昭和33年に、日本大学第二工学部校友会が誕生し、今日に至つておりますが、歴史の浅い割合には、校友会の内容・活動の規模共に順調にいつておると思つています。本学部の校風はいわゆる「家族大学」を理想としており、先生を両親、卒業生が兄貴、学生が弟というような状態で生活をしておる訳です。私個人のことを申しますと昭和28年に卒業し、福島県庁に入り、現在に至つておるのですが、県庁の先輩に「学校の先生にこの前会つたら、渡辺君は一生懸命やつているか。よく面倒みてくれ」と云つておつたぞというようなことを聞くたびに、卒業後十数年過ぎた現在でも、先生がなにかと気にかけてくれているんだなあと思い、本当に本学部を出て良かったと思つております。また私が福島県庁に入ったときの課長が先輩で、入つたばかりで親しく口を開くことも出来ない中に病気で入院され、間もなく他界されたのですが、死ぬ前に病院でサラリーマンとしての生き方に色々の道があるが、渡辺君としては今后こんな生き方の方が良いと思うがどうだと、よく私の気持まで理解して色々な角度から話をしてくれ、私にまでこんなに关心をもつておつてくれたのかと、涙の出るほどうれしく思つたことを、今でも忘れることができず、機会あるごとにお邪魔して仮前に焼香させて貰つております。この亡くなつた課長さんの息子さんがまた日大出身の後輩で、今、県庁におり是非先輩から受けた御恩を息子さんになんらかの形でお返ししたいと思つてますが、未だにその機会もなく過ぎて

おります。またこれから何年かのちには私の息子がこの後輩にお世話になることになるかも知れません。こう考えてくると、先輩に対しても、同じカマのメシを喰つた家族だと云う気持で、校友とは親身になつてつきあつてゆきたいと思つております。

校友会活動も、この家族大学という校風の線に沿つて活動しておるわけで他の大学の校友会にはみられない、校友会独自の奨学資金制度を設け、経済的に苦しい弟には、校友お互が金を出し合つて協力しております。

新入生に対しては、遠くから来て郡山の地が全然わからないため、下宿をさがすにしても仲々大変ですので、校友会で下宿の世話をするようにしており、また3、4年生には実社会と學問の関連性等について、全国で活躍している校友の中から、毎年5～10人の校友を学校に呼んで話をして貰つたりして、社会人としての自覚をうえつけたり、また卒業式当日は卒業生全員に校友会主催で卒業祝いをやつてはげましてやつております。

校友会が学生にこのような色々な事業を行つておりますのも、先生・校友・学生皆一家族であるという校風から出発していることあります。今后も、校友会活動はこの線に沿つて運営してゆきたいと思つております。ただここで問題になりますのは10年后の校友会活動はどうなるかということを、深く考えてみたとき、色々と問題点があると思います。

現在の校友会の収入は入会金、一般会費、終身会費のみであり、10年后でも収入は現在と同じ程度が予想されますが、支出については、校友が増えるに従つて増加することは間違のないこと、10年后には校友の予想数が現在の倍以上の約10,000名、校友に往復葉書1枚づつ出しても1回10万円、それこそ名簿でも発行すれば100万円以上の費用がかかり、他の事業が何もできなくなるということも予想されますので、今からこれに対処すべきであると考え極力資金の蓄積をはかるということで、数年前から積立をしており、現在数百万円の積立金になつております。そのために現在の校友会活動がおろそかにならないように、事務費を極力おさえ、事業費は例年どおりにするということで、事務局の方で苦労しておるのですが、幸いに学校当局も非常に校友会活動に深い理解をもつてくれておますので、10年后の校友会活動も、今后の資金の蓄積とあいまつて、名簿さえ満足に発行できない校友会になることはなく、少なくとも現在程度の活動はできる見とおしております。

最後に、全国で活躍されている校友諸兄におかれましては、常に校友会と連絡を密にしていただきたいと思つています。私は校友会員名簿に所在不明者が1人もいない名簿を発行したいと願つておりますので、少なくとも住所変更の時は連絡下さるようにお願い致します。

校友の皆さんのご活躍をお祈りいたします。

(筆者は土木工学科第1回卒

福島都市計画事務所工務課長)



# 「日大磐梯高原寮」が完成 大講堂・本館も同時着工

校友会報第6号で報告しておいた、待望の「日大磐梯高原寮」は、雪融けの過ぎた今年5月に着工され、この8月にようやく完成をみた。

この寮は、学生や教職員などの強い要望によつて実現したもので、磐梯山の東側に位置し磐梯登山や裏磐梯吾妻スカイラインのベースとして、又国際スキー場が近くにあり、利用価値の高いものである。

道順としては、磐越西線猪苗代駅下車、駅前から「磐梯高原行き（会津バス）」に乗り、約12分で、「磐梯国際ロツジ入口停留所」下車、そこから歩いて約10分でたどり着ける。

寮の近くにある「渋谷（シブタニ）登山口」琵琶沢登山口から約2時間で沼ノ平（標高1448m）に行くことが出来、そこから約1時間で「宝の山磐梯山の頂上」（1819m）に到達することができる。冬は新設された磐梯国際スキー場でスキーを満喫することができる。



磐梯高原寮の建坪は約234坪で、管理棟、教職員宿舎、学生宿舎の三つの建物から出来ている。

管理棟——1階—玄関・スキー乾燥室・ボイラー室・

事務所・倉庫・ホール

2階—食堂・厨房・浴室

3階—管理人室

教職員宿舎——6帖（3室）・12帖（1室）・4.5帖（3室）  
・洗面所

学生宿舎——収容人員 72人 3段ベット

その後の計画としては、道場の建設の予定などがあり、これらが完成すれば、尚一層充実するものと思われる。この磐梯高原寮の使用に関する細部の規則は、8月初め現在には、まだ決定されておらず、校友の中で、そのことに関して質問ある人は、校友会事務局に連絡されると良いでしょう。

これとは別に、学部の地内に大講堂建設の話がようやく実現することになり、8月4日に地鎮祭が行なわれ、8月下旬着工、41年4月完工の予定である。

◎大講堂（兼体育館）

1階—2136m<sup>2</sup>

玄関・玄関ホール・大食堂・購売部など

2階—2191m<sup>2</sup>

大講堂兼体育館（椅子の数3,600）

3階—805m<sup>2</sup>

ホールなど

◎本館（図書館）

5階建・延約700坪

この中には事務室・図書々庫・カード室・教職員閲覧室・学生閲覧室・会議室（300人収容）休憩室などが含まれている。

（以上の資料は第二工学部營繕室よりの提供による）

【左の写真は完成した磐梯高原寮の全景】

# 郡山市が人口22万都市へ 学部も郡山市域に入る

新産業都市の指定を受けた「郡山市」は、附近の町村を合併し、この5月に学部の徳定（トクサダ）もようやく郡山市と呼べるようになった。

合併した市町村は、郡山市・安積町・三穂田村・逢瀬村・片平村・喜久田村・日和田町・富久山町・湖南村・熱海町・田村町・中田村・西田村で、人口は224,720人面積は729.43km<sup>2</sup>となり、東北では仙台・青森に次いで第三位の人口を数えるようになった。

これにともない、第二工学部や第二工学部校友会事務局の所在地も、正式名が「福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地」となり、われわれの長い間の希望であつた「郡山市への合併」が自動的に行なわれたかたちとなつた。

新市内は猪苗代湖から東側の阿武隈山系の蓬田嶺までを含み、工業、商業・観光地帯が発達し、今後に期待されるものが大きい。

郡山市役所企画広報課よりの広報によると、新市内となつた逢瀬町多田野の浄土松公園（陸の松島との別名も

ある)には、こともの村建設の話が大部具体化しており、横浜の国立こともの村を見本として設計中と云う。

また安積町の荒井と日出ノ山との間には、東北一の操車能力をもつ「国鉄操車場」が建設中であり、これは今年末から一部操業開始と云うことである。

このように、校友諸兄にとつては“第二のふるさと”と云うべき「郡山」は、着々そのカタチを変貌しつゝあり、その変化速度には目をみはるものがある。

広報の中から「郡山市の教育」に関する事項を列記すると、次の表のようになる。

### 郡山市の教育（40年6月1日現在）

	生徒数	教職員数	学校数
幼稚園	2,839	113	18
小学校	27,792	896	58(11)
中学校	16,196	643	30
高等学校	4,365	505	14
大学	3,713	272	2

( ) 内は分校数

# 郡山市域図



昭和40年度

## 校友会総会開く

昭和40年度の第二工学部校友会総会は、去る5月9日午後1時30分より、新装の郡山市内「郡山商工会館会議室」で開催され、総会終了後に、同会場で学部の各科の主任教授を交えて懇親会に移つた。

### 議事概要

定刻吉田事務局主任の司会で総会が始められ、渡辺会長が開会の挨拶をし議長に関根昭一(電2回)氏を選出しして議事に入った。

昭和39年度会務報告は、三沢事務局長が行ない、「39年度の諸活動のうち、特筆すべきものは、校友と学生との講演・懇談会一報6号にて報告一を初めて催したことであり、学部当局や参加校友の尽力もあつて、成功裡に行なえたことに感謝しており、来年度からもこの催しが恒久的なものとなることを願つている。」と報告をした。

昭和39年度会計報告は小林経理部長が行ない、別掲のように報告し、特に終身会費としての収入はすべて積立金とし、その利子だけを経常費として支出に廻していることを述べ、監事からも監査の報告がなされた。

会則審議では、事務局の機構変更に関するものが、事務局から提案され、原案通り可決された。(会則については、会員名簿の昭和40年版に掲載したから参考にしてもらいたい)

昭和40年度予算審議では、昭和40年度は4年に1度の会員名簿発行の年に当り、それらを中心とした「予算案」が事務局から提案され、別掲のように可決された。

昭和40年度役員選出は、選考委員を選出し、その委員の報告が議事としてはかられ、渡辺会長の留任を含めて、別掲のように決定をみた。

総会後は、学部の広川学監、土木科の加藤先生、電気科の本間先生、化学科の宇野原先生、事務から石田事務長が参加されて懇談会に入り、席上、石田事務長から「磐梯山麓に建設中の山の家」などの話があり、参加者の関心を呼んだ。

### 昭和39年度歳入歳出決算報告書

#### A・経常費の部

款項	説明	種目	更正予算額	決算額	比較増減
----	----	----	-------	-----	------

1. 岁入 (△印は比較増)

会費	1 一般会費	506,000	507,400	△ 1,400
	2 終身会費	1,560,000	1,560,000	0
入会金	3 入会金	647,000	647,000	0

繰越	4 前年度繰越	72,049	72,049	0
雑取入	5 会館設備資金	647,000	647,000	0
	6 預金利子	34,800	49,461	△ 14,661
	7 雜入	100	25,345	△ 25,245
	計	3,466,949	3,508,255	△ 41,306
	8 口座違い入金		60,070	
	総計		3,568,325	

#### 2. 岁出

事務費	1 報酬	90,000	90,000	0
	2 給料	422,500	422,500	0
	3 旅費	100,000	99,840	160
	4 諸手当	194,000	193,943	57
	5 交際費	85,000	80,511	4,489
	6 消耗品費	27,500	27,268	232
	7 燃料費	15,000	14,510	490
	8 食糧費	10,000	7,910	2,090
	9 印刷製本費	36,000	33,910	2,090
	10 通信運搬費	158,900	156,222	2,678
	11 借料及損料	15,000	14,650	350
	12 修繕費	17,500	15,080	2,420
	13 備品費	25,000	23,650	1,350
	14 負担補助交付	110,000	110,000	0
	15 保険料	51,000	50,657	343
	16 積立金	1,560,000	1,560,000	0
	計	2,917,400	2,900,651	16,749
事業費	17 賃金	15,000	15,000	0
	18 下宿斡旋費	40,000	37,820	2,180
	19 会報発行費	58,000	56,625	1,375
	20 名簿作成費	50,000	50,000	0
	21 アカシヤ授与金費	72,000	72,000	0
	22 卒業祝賀会費	110,000	107,630	2,370
	計	345,000	339,075	5,925
会議費	23 総会費	30,000	25,130	4,870
	24 役員会費	69,300	69,300	0
	25 旅費	5,000	3,340	1,660
	26 食糧費	10,000	9,900	100
	27 雑費	5,000	4,040	960
	計	119,300	111,710	7,590
予備費	28 予備費	85,249	77,518	7,731
	計	85,249	77,518	7,731
	合計	3,466,949	3,428,954	37,995
	29 口座違い返金		60,070	
	総計		3,489,024	

歳入 3,568,325円 - 岁出 3,489,024円

= 残額 79,301円

残額 79,301円 は次年度へ繰越すものとする。

## B・積立金の部

1. 事業基金積立金	
前年度繰越金	1,573,191
本年度利子	18,825
会館維持積立金より編入	160,462
会館移設工事	-1,495,260
本年度残額	257,218
2. 退職金積立金	
前年度繰越	3,591
本年度積立(校友会)	29,575
" (局員)	12,675
本年度利子	0
本年度残額	45,814
3. 名簿作成積立金	
前年度繰越	104,477
本年度利子	2,496
本年度残額	106,973
4. 会館維持積立金	
前年度繰越	156,715
本年度利子	3,747
事業基金積立金に編入	-160,462
本年度残額	0
5. 積立金(終身会費)	
前年度繰越	0
本年度積立	1,560,000
本年度残額	1,560,000

以上5種の積立金の本年度、残額は次年度へ繰越するものとする。

昭和40年4月18日

日本大学第二工学部校友会

会長 渡辺 幸夫㊞

上記の通り相違ありません

昭和40年4月18日

監事 後藤 尚㊞

" 宮戸 敏雄㊞

## 昭和40年度予算

### 経常費の部

款項	説明	種目	予算額	39年度決算額	比較増減
(△印は比較増)					
		1歳 入			
会	1 一般会費	520,000	507,400	△12,600	
費	2 終身会費	1,550,000	1,560,000	10,000	
会館	3 入会金	740,000	647,000	△93,000	
繰越	4 前年度繰越	79,301	72,049	△7,252	
雜	5 会館設備資金	740,000	647,000	△93,000	
收	6 預金利子	150,000	49,461	△100,539	
入	7 雜収入	28,000	25,345	△2,655	
	合 計	3,807,301	3,508,255	△299,046	
		2歳 出			
事	1 給料	481,150	422,500	△58,650	
務	2 諸手当	273,950	193,943	△29,350	
費	3 役職費	90,000	90,000	0	
事	4 旅費	100,000	99,840	△160	
業	5 交際費	50,000	80,511	30,511	
費	6 消耗品費	100,000	27,268	△72,732	
事	7 燃料費	20,000	14,510	△5,490	
業	8 食糧費	5,000	7,910	2,910	
費	9 印刷製本費	45,000	33,910	△11,090	
事	10 通信運搬費	220,000	156,222	△63,778	
業	11 借料及損料	10,000	14,650	4,650	
費	12 修繕費	15,000	15,080	80	
事	13 備品費	60,000	23,650	△36,350	
業	14 負担補助交付	50,000	110,000	60,000	
費	計	1,520,100	1,340,651	△179,449	
事	15 貸金	15,000	15,000	0	
業	16 会報発行費	60,000	56,625	△3,375	
費	17 名簿作成費	210,000	50,000	△160,000	
事	18 下宿斡旋費	15,000	37,820	22,820	
業	19 アカシヤ奨学金費	72,000	72,000	0	
費	20 卒業祝賀会費	155,000	107,630	△47,370	
事	21 特別事業費	80,000	0	△80,000	
業	計	607,000	339,075	△267,925	
会	22 総会費	20,000	25,130	5,130	
議	23 役員会費	60,000	69,300	9,300	
費	24 旅費	5,000	3,340	△1,660	
事	25 雑費	5,000	食 9,900 雑 4,040	8,940	
業	計	90,000	111,710	21,710	
預	26 予備費	40,201	77,518	37,317	
備	計	40,201	77,518	37,317	
積	27 積立金	1,550,000	1,560,000	10,000	
立	計	1,550,000	1,560,000	10,000	
	合 計	3,807,301	3,428,954	△378,347	

## 昭和40年度役員

会長 渡辺 幸夫	(土1回)	幹事 小山田克己	(土5回)	同 同	柳沼 一夫	(建8回)
副会長 高野 操	(化3回)	同 浜津 文雄	(土6回)	同 同	黒田 浩司	(建9回)
同 根本 年男	(機4回)	同 三沢 好夫	(建4回)	同 同	橋本 寛	(建10回)
理事(事務局長・総務部長) 小林 秀一	(土7回)	同 小栗 治男	(建7回)	同 同	新井健一郎	(建11回)
理事(事業部長) 外山 隆吉	(建6回)	同 菅野 宗和	(機2回)	同 同	塙原 健二	(機3回)
理事(経理部長) 安田 稔輔	(土6回)	同 水田 守	(機4回)	同 同	佐藤 光正	(機9回)
理事 近藤 功	(機4回)	同 烏羽 重幸	(電1回)	同 同	中村 泰三	(機11回)
同 斎藤久志郎	(建5回)	同 関根 昭一	(電2回)	同 同	橋本 耕吉	(機11回)
同 半沢 忠	(化6回)	同 後藤 尚	(化2回)	同 同	山岸 利正	(電4回)
監事 橋本 義久	(電4回)	同 平手 仁	(化5回)	同 同	渡辺 清未	(電4回)
同 柳沼 福夫	(機5回)	評議員 三瓶 栄信	(土2回)	同 同	宍戸 敏雄	(電6回)
同 遠藤 喜彦	(化9回)	同 太田 雄八郎	(土3回)	同 同	篠崎 道夫	(化2回)
		同 鈴木 光保	(土5回)	同 同	柳沼 力夫	(化7回)
		同 佐藤 司	(土5回)	同 同	善方 威夫	(化8回)
		同 横溝 秀雄	(土6回)			
		同 木村 圭二	(建3回)			

# 会員消息

— 事務局ではこの頁の投書をお待ちしております  
写真・スケッチなども歓迎いたします —

石島 秀雄（建3回）（伊藤喜三郎建築設計研究所）  
校友の皆様お元気ですか。

小生只今、国際病院建築設計ゼミナール参加のため、  
5月中旬以来当地に滞在して居ります。

当地は誠に風光明美で、唯溜息が出るばかり、気候も  
今が最良の季節とのことで大いに張切つて居ります。  
このゼミナールには、日本から、1人のドクターと、  
8人の建築家が参加して居り、スイスを中心ヨーロ  
ッパ各地の病院建築の実例をテーマとして、将来の病  
院建築のあり方等について研究討論するものです。数  
少いチャンスですので大いに懸念つて、すべてを吸収  
して帰るつもりです。ゼミナールの終り次第、アメリ  
カ廻りで7月下旬帰国の予定です。

1965.6.13. スイス・チューリッヒにて

古田 生春（化13回）（日本油脂K.K.）

今春卒業致し、日本油脂に入社、この程任地が戸塚工  
場に決定、工場では技術課に席をおき、合成樹脂塗料  
の研究に従事する予定です。先輩の御鞭撻をお願いし  
ます。（40.5.）

横 達男（建11回）（大成建設K.K.）

オホーツクの流水もいつしか溶けて新らしい春がやつ  
てきた北海道ともお別れして、單身上京してきました。  
私は北海道の土のにおいが大好きです。

今後も自分の立ち場を自覚して、より一層研究し、精  
進してまいる所存でありますので、御芳情をたまわり  
たくお願いいたします。（40.5.）

坂井 修一（化6回）

40年1月1日付で、超音波工業K.K.から東北化工K.  
K.東京研究室に転職しました。

東北化工K.K.は、仙台の東北金属の子会社で、今度

実質上の発足となり、これに参画することになりました。  
プラスチック材料のメーカーで、今年秋には戸塚  
に工場が建設され、そちらに移る予定です。

(40.2.)

大根田能夫（化12回）（K.K.淡路）

入社以来9ヶ月が経ち、土地や会社にもなれてきましたが、10月より来年2月まで、東京の日本規格協会の実験計画法を学ぶため、会社より短期養成講習5ヶ月コースに入社させて、統計学の勉強をしています。授業は宿題が沢山出されて、解答して行き、翌日に出て発表し、議論するのです。毎日大変ですが、新入社員としては恵まれた機会ですから日夜頑張っております。講習会に、日大の第二工学部卒が小生一人しか出でていないので一寸残念です。（39.12.）

北御門義広（土10回）（建設省九州地方建設局）

小生このたび、道路工事課構造係勤務を命ぜられ、着  
任いたしました。延岡工事事務所在勤中同様に、御指  
導を賜まわり下さい。（40.4.）

角川 宏介（機10回）（富士車両K.K.）

校友会報第6号を見て、母校の発展ぶりが判り、大変  
なつかしく思います。私達の第二のふるさとでもある  
郡山やトクサダも発展してきたことだろうと思いま  
す。やはり郡山の地名はなつかしいものです。

(40.2.)

北心会総会開かる

北心寮の卒業生の集まりである北心会は、40年度の総  
会を去る3月25日の夕方から新宿で開いた。

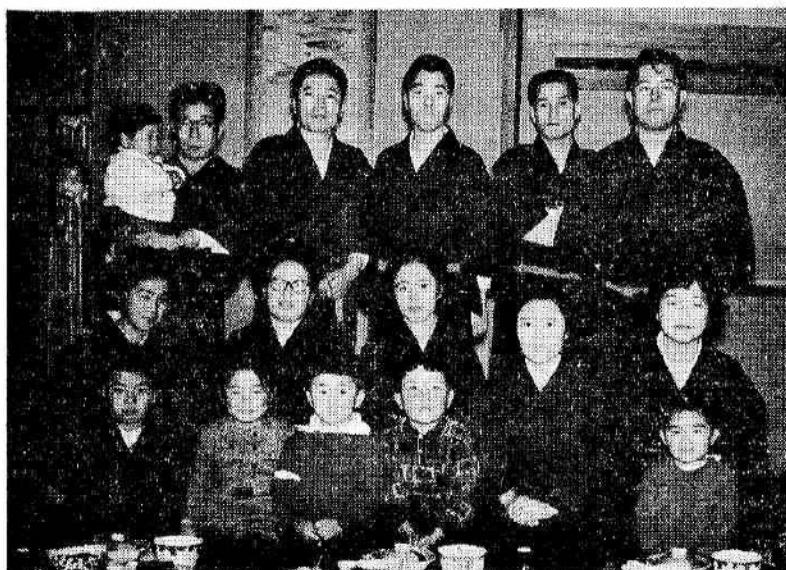
会には古村和夫会長（土3回）を初め、約30人が出席  
し、郡山から参加してくれた池田清藏氏を開んで、な  
ごやかに行なわれた。

この総会は卒業式当日に毎年行なわれるもので、新ら  
しく社会に出て行く人達を励ます会でもあり、仲々盛  
会であった。

○旧友の再会 渡辺幸夫（土1回）氏連絡  
学生時代の親友6人が、昭和28年卒業以来、  
お互の結婚式に招かれて会う機会きり  
なかつたので、一度家族同伴で一晩語り合お  
うじやないかと連絡したところ、奥さんがお  
産で出席できなかつた相沢君を除き、5人が  
出席して、39年の秋に飯坂温泉の若喜旅館で  
開催した。

酒がまわるにしたがつて、奥さんの前で、学生  
時代の彼女の話が出たり、カンニングの話  
などに夜遅くまで昔話に花が咲いた。翌日は  
植物園を見学し、奥さんたちの要望により來  
年の再会を約した。

【写真】は右より、松田忠倫（土1回、磐城工業用水道事務  
所勤務）下山田勇二郎（土1回、会津若松市役所勤務）渡辺  
幸夫（土1回、福島都市計画事務所勤務）安斎文夫（土1回  
、二本松駅前タクシー業自営）上石和郎（化1回、泊水工  
業KK東北出張所勤務）その前列は各々の奥さんとその子  
供たち。



# NEWS

## ◎ 今年度のアカシヤ奨学生決る

第二工学部校友会が毎年学生に支給しているアカシヤ奨学資金の、昭和40年度奨学生は、多数の応募者の中から、学生課長の推せんのあつた、次の三君に決定し、採用された。

渡辺 文好（機械工学科1年）

福島県立安積高等学校卒業

後藤 志郎（工業化学科2年）

名古屋高等学校卒業

下村 忠永（建築学科4年）

長野県立上田高等学校卒業

## ◎ 会員名簿を発行

第二工学部校友会事務局では、会員名簿の昭和40年版を8月20日付で発行した。これは4年毎に全会員を網羅した会員名簿を作る内規に従うもので、33年、36年に次ぐ第3冊目で、日本大学本部役員名、第二工学部教員住所録などを含み、正会員約3,800名の連絡先を記載したもので、約90頁にのぼる大冊である。

## ◎ 校友の学生への講演・懇談会の出席者募集

校友会報第6号で報告しておいた表記の会合は、学部当局にも学生間にも成功裡に終了したが、事務局では40年度のそれを11月頃に計画しており、その出席者を募集しています。主として3.4年生を対象にして1時間程講演し、その後懇談するもので、古い卒業生の出席を希望しています。希望のある人は事務局まで連絡して下さい。なお昨年度の出席者は次の通りである。

土木・相沢千明（日本道路公団）（1回卒）

建築・石島秀雄（伊藤喜三郎建築設計研究所）（3回

## ニックネームを募集

「校友会報」は今まで新聞型式のタブロイド版で印刷して、第6号まで発行してきましたが、内容のより一層の充実を期するために、この「週刊紙」大のB5左開きに変更いたしました。今回は止むを得ず「校友会報」の第7号としましたが、次の号からは「表紙」にふさわしい「ニックネーム」を付けて、号を続けて行きたいと思います。

それで「日本大学第二工学部校友会の校友会報」としての内容を単純に表現するような「ニックネーム」を諸兄姉から募集致します。来る10月末までに事務局にお送り下さい。皆さんの応募を期待しています。

なお、日本大学工科校友会の機関紙は「桜工」附属の東北工業高校のそれは「桜栄（おうだ）」と名付けられています。参考まで。

卒）

機械・曲山菊雄（日立製作所）（1回卒）

電気・鈴木 清（大興電機K.K.）（2回卒）

化学・杉原 潤（ミツミ電機K.K.）（1回卒）

## ◎ 校友三君が母校の専任講師に

40年4月1日付で、次の三君が母校の専任講師となり、後輩の指導にあたることになった。

土木工学科、安田楨輔君（6回卒）

建築学科、外山隆吉君（6回卒）

工業化学科、高野 操君（3回卒）

## 入学試験科目変更

昭和41年度学生募集の要項が発表され、それによると入学試験科目が次のように変更されている。

数学——数学Ⅰ・数学ⅡB

理科——物理B・化学B（1科目選択）

外国語——英語B

入学試験の期日は、東京出張試験は2月下旬で、郡山試験は3月上旬であり、詳細は決つていない。

# 菊 建 築 事 務 所

所 長

菊 地 秀 夫

（建築学科第1回卒）

東京都千代田区神田佐久間町3-21 やよいビル TEL(866)7932